

高齢者も介護士も元気になる 介護老人保健施設「おとなの学校」

「施設を学校に」 高齢者を元気にする発想転換

熊本県を拠点とする医療法人社団大浦会は、介護老人保健施設の運営や在宅サービスなどを行なっている。

中でも特徴的なのが、「介護しない介護が人を元気にする」という逆転の発想から生まれた介護老人保健施設「おとなの学校」だ。介護老人保健施設は在宅復帰のための施設だが、在宅復帰率は全国平均で約24%と低迷している一方、「おとなの学校」は同60%超と、群を抜いている。

「おとなの学校」は、理事長である大浦敬子氏の経験から生まれた。父が外科医院を営んでいたことから、大浦氏も医者となって経営に携わっていたが、高齢者と接する中で、重度の認知症を患う人の中に、施設を学校だと思っている人がいると気付いた。そこで同氏は、思い切ったことに着手する。「施設を学校にしてしまおう」。

通常、介護の現場では、高齢者は受け身になり、生きる意欲を保つことが困難になりがちだ。しかし、「おとなの学校」では、高齢者は「生徒」、介護士は「先生」と、各自が役割を持ち、国語、理科、音楽などの「授業」を通じて存在意義を感じられる。定刻にチャイムが鳴り、懐かしい黒板と机と椅子が置かれた「校舎」の中で、高齢者たちはかつての生徒に戻り、五感で学ぶ楽しさを味わう。明日への希望を持ち、



「おとなの学校」の通学期間は原則3カ月。終了後は卒業式を行なう。期間を明確にすることでメリハリがつき、サービス品質の確保にもつながる。



「おとなの学校」は、東京、埼玉、愛知、大阪、兵庫、広島、熊本(本校以外)、鹿児島にフランチャイズ展開している。

元気を取り戻していく。車いすでゆっくりとしか移動できなかった患者が、少しでも早く教室に行くために、以前では考えられないほど速く移動できるようになった例もある。

この仕組みを広めるべく、大浦会は「おとなの学校」をフランチャイズ事業化。九州の他、関東、中部、関西で合



黒板や椅子、机や椅子が学校のように整備された内観。定刻に懐かしいチャイムが鳴り、気持ちの準備もできる。

計12校が開校している。

「おとなの学校」で最近、注目されているのは「特別授業」だ。音楽に合わせて若手の介護士が格好良く踊り、高齢者も見よう見まねで手や足を動かしながら一緒に踊る。また、30～40年前の流行曲を取り入れるなど、授業内容にも工夫をこらしている。



特別授業の一場面。高齢者による「太鼓部」の演奏と、社員による「よさこい」のダンスとの共演。高齢者と社員が一つの舞台を作り上げた。



熊本の「おとなの学校」本校には、地域に開かれた運動スペースがある。複数のトレーニング機器があり、近隣の高齢者の交流の場ともなっている。

軽妙な語り口とキレのあるダンスで参加者を楽しませる若い介護士たちは、「伝導師」を意味する「エヴァンジェリスト」と呼ばれている。「自分たちが高齢者になった時、「おとなの学校」ではどんな授業を行なっているだろう。現在、流行っている歌が授業で流れて、「懐かしいね」「元気になるね」と話せたら楽しいね」。そんな会話から生まれた、彼ら主導の活動だ。現在、エヴァンジェリストたちは、各地の「おとなの学校」で特別授業する傍ら、講演や大学講義に呼ばれ、新たな介護の在り方、新たな介護職を語る役目も担っている。

社員の誇りの醸成と、介護士の社会的地位の向上に貢献

「おとなの学校」は、介護される側だけでなく、介護する側にもよい影響を及ぼしている。

介護士は「介護している」という意識

ではなく、「学校の先生」として接しており、生徒と共に学び合う。介護士がブレザーを着用していることも、「先生」であることへの誇りと責任の表れだ。

理学療法士でエヴァンジェリストでもある河口明広氏は、「初めは人前で話すことが苦手でも、先生として授業をしているうちに、どうしたらもっと喜んでもらえるだろう、笑顔を増やせるだろう、と考えるようになる。その過程も楽しいんです」と語る。

「おとなの学校」を運営するにあたり、組織内ではさまざまな取り組みが行なわれている。例えば、介護士は自らのあるべき姿を現した校訓や行動基準となる言葉をまとめた「コンパクト理念ブック」を名札裏に携帯している。これを作成する際に中心となったのは平均26歳の若いチームであったというから、理念共感の高さが伺える。また、全国の「おとなの学校」のスタッフが意見交換する場として社内専用

のネットワークシステムを構築しており、日々の運営上の悩みや業務上の工夫を共有している。さらに、新しく開発・改良したカリキュラムの共有・投票ができるようになっており、一定数以上の票を集めたカリキュラムは「「おとなの学校」公認の授業」として正式に採用される。このように、理念に基づいた質の高いサービスが、どこでも提供できるようになっている。

今後も高齢化が進む中で、「介護士に対する尊敬が高まるような取り組みをするとともに、介護士の数が限られても、支援を受ける側が困らない仕組みを作っていきたい」と大浦氏。同氏は、「自分たちにとってのおもてなしとは何か」という問いにこう答える。「生きる喜びをあふれるくらい持ってもらうこと」。65歳以上の高齢者が25%を超え、超高齢社会となった日本。国の将来も視野に入れた同氏の取り組みに期待が高まっている。

会社概要

- ・法人名：医療法人社団 大浦会
- ・代表者：大浦 敬子 理事長
- ・所在地：熊本県熊本市中央区水前寺4-52-44
- ・設立年月：1977年4月
- ・資本金：43,660,000円

- ・ホームページ：http://www.ourakai.com/
- ・社員数：正規212名、パート・アルバイトなど65名
- ・事業内容：病院、介護老人保健施設、訪問介護、訪問看護、居宅介護支援、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、疾病予防運動施設、通所介護